

支部だより

関東支部

昭和三十七年卒

吉本 忍

関東支部第二十八回総会を、令和六年十一月九日に、例年通り主婦会館プラザエフに於いて、来賓に母校より谷校長先生、六星同窓会本部事務局より、安川先生、山口先生、白山市東京事務所村井所長に、会員八名の参加により開催しました。冒頭司会者より、能登の地震と、豪雨による犠牲者と、この一年で故人となられた会員のご冥福を祈り黙祷をささげた後、谷校長には備蓄非常食の開発に力を入れた等の報告があり、議事に入り、活動報告、決算報告の議案を審議し、承認可決し総会は終了致しました。続いて懇親会に入り、所長より新任のご挨拶と白山市の近況報告を頂き、次に六星同窓会事務局からは記念事業の募金の状況が良くないので対策を考えている



東海支部

昭和三十三年卒 猿渡 孝之(旧姓加成)

六星同窓会東海支部の総会は、令和六年五月二十五日サンプレスホテル名古屋駅前店に於いて、来賓に母校より谷校長、同窓会本部より本会長、県人会西田会長、会員八名の参加により開催しました。開催に先立ち、年次報告、昨年コロナ禍で総会が中止になった間に会員の出席に対する意欲が足りなくなり、会の存続が危惧されたとの報告、谷校長より学校の近況報告をいただき、

き、本部長の本氏より開校百五十周年の進捗状況の報告、又県人会の西田会長より、初めて顔を出して挨拶され、県人会の近況を報告されました。続いて「事業計画」「収支決算書」を審議していただき、承認されました。引き続き懇親会に入り、会員の高齢化に伴い、来年の会を維持していくこと、この話題でもちぎりととなり、結論が出ないまま閉会となりました。



金沢支部

昭和四十八年卒

松平 裕喜

一月一日、震度七の能登半島地震が発生し、九月には豪雨があり未曾有の災害の一年になりました。被害に遭われた皆様方には心よりお見舞いを申し上げ、一日も早い復興を願っています。

七月十二日、金沢支部の総会をANAホリデイ・イン金沢スカイで行いました。総会には本昌康会長、谷正一校長をはじめ学校関係者の方々に御出席を頂き、講演会には昭和四十六年卒の宮子豊吉氏を迎え、学生時代から現在に至るまでの出来事や苦勞の数々をお話しいただきました。

総会の席に学校関係者の方々が参加して貰えると、学校の様子が伺えて、有意義であり、会も盛り上がりました。

翠星高校特産のクッキーを参加者十七名に、残りの百二十袋とジャム五十個を販売するも瞬時に完売。販売も総会も名残り惜しくも終了しました。



翠星トピックス

〈今年度の表彰〉

- 第七回農業クラブ全国大会 令和六年度若手大会結果
- プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 優秀賞
- 食品科学コース和菓子班 「敬老の日に和菓子を贈ろう」大作戦!」
- 意見発表会 分野Ⅲ類 優秀賞
- 食品科学コース 三年 上谷 菊環 「非常食を備蓄してください」
- 能登半島地震から学んだこと」



環境科学コース

国家資格への挑戦!

測量士補一名 合格

三年 木谷 公介

三年 池田 裕紀

二年 小崎 晴道

二年 丸田 優介

二年 佐野 優空

二年 山本脩一朗

二年 小崎 晴道



イベントへの参加

SUISEIマルシェ

(場所:イオンモール白山、日程:七月十五日)

農林漁業まつり

(場所:産業展示館、日程:十月十九日、十月二十日)

いしかわ産業教育フェア

(場所:イオンモール白山、日程:十月、十六日)

事務局だより

〈本部〉

〔会計監査〕

十月十一日(金) 本校視聴覚室

〔総会〕

十一月二十三日(土) 翠星高校

〔支部総会〕

金沢支部総会 七月十二日(金)

ANAホリデイ・イン金沢スカイ

東海支部総会 五月二十五日(土)

サイプレスホテル名古屋駅前店

関東支部総会 十一月九日(土)

主婦会館プラザエフ

※関西支部は令和四年度をもって解散しました。

創立150周年特設サイトを開設しました!!

翠星高校 150周年 検索

または

松任農業高校 150周年 検索

(本校ホームページからもご覧頂けます)

150年のイチゴイチエ

特設サイトはこちらを読みとって下さい▲



発行所
〒924-8544 石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校印刷部
印刷
星印
能登

ロケットと自動草刈り機



六星同窓会 会長 本 昌 康

二〇二三年九月、私はスペースXの工場見学機会を得ました。かのイーロン・マスク氏の航空宇宙メーカーです。カリフォルニアの友人の

この一年を振り返って



谷 正 一 校長

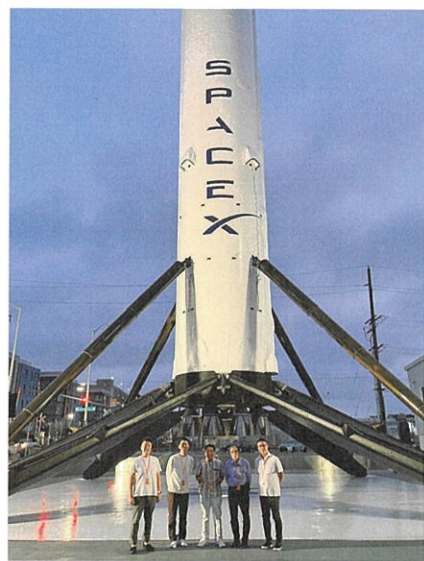
日頃より、六星同窓会の皆様には、本校の教育活動に対して多大なご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。翠星高校(旧松任農業高校)は、日本で最も歴史がある農業高校として、創立百四十八周年目を迎えることができました。諸先輩が築いてくださった本校の歴史と伝統

計らいでしたが、多くの機密を抱える企業だけに渡米前からの入念な審査を経た上での実現でした。私は経営には興味があったものの、ロケットには特別な関心を抱いていませんでした。見学中も「ここは儲かっているのですか?」と案内役の若い日本人スタッフに尋ねていました。しかし彼は「はい、儲かっています」と即答するではありませんか。驚いた私は「自動草刈り機(テストラ)で儲けて、その資金で運営されているのでは?」と返しました。彼は笑って答えました。「今年は今日までに七十七機のロケットを打ち上げました。それとロケットを回収して再利用する新技術により大幅にコストを削減しています。今の重みを胸に、日々教育活動を展開しています。石川県の農業教育を常に牽引し、これからの社会に貢献できる心豊かな人間の育成を続けています。さて、この一年を振り返ると、まず、奥能登を中心とする本県が度重なる大災害に遭ったことが思い出されます。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災された方々にお見舞いを申し上げます。本校は、幸い施設・設備の損傷はありませんでしたが、生徒職員の中には直接被災したり、ご親族、知人に大きな被害が出た方もおり、心を痛めました。年末・年始に奥能登を訪れましたが、被災当時のまま残っている場所が被る所であり、復旧、復興にはまだ相当の時間がかかるように感じました。本校は、石川県の農業高校

やテスラ以上の利益を上げていると思えます。私は驚きスペースXに対する関心が一気に高まりました。その後、彼からイーロン・マスク氏のいくつかのエピソードを聞きましたが、特に印象に残ったのはなぜ宇宙事業を選んだかという理由です。「人類はやがて滅びる。生き延びるためには火星に移住しなければなりません。そのため現在のロケットは火星でも入手できる鋳物を使用しており、現地で新たに作ったり修理したりできるような設計がされていることです。この話を聞き、マスク氏の火星移住への真摯な思いが伝わってきました。帰国後、私は書籍「イーロン・マスク 上・下」を購入し、彼が稀有な天才であるかを知るとともに、その行動力の根底には「思いの深さ」があることを感じました。彼の挑戦は単なるビジネスではなく、人類の未来を見据えたものだと思えました。この経験を通じて、人の思いの深さが社会の進歩や発展を生む原動力であることを再認識しました。

の窓口として、全国の農業高校からの義援金等の支援を取りまとめ、農業系のコース、系列を持つ能登高校、七尾東雲高校へ送る役割を担い、更には、農業クラブや農業校長会の全国会議において、本県からの感謝のメッセージを発信しました。校内に目を移すと、十一月に開催された文化祭が最も印象に残りました。学校公開の二日は、季節外れの台風の影響で荒天が予想され、開催が危ぶまれましたが、生徒、教職員が一丸となり、大型テントの設置など臨機応変な対応を行うことで、大雨の中で無事開催にこぎつけ、保護者をはじめ、地域の方々や多くの同窓生の皆様にご来場していただき成功裏に終えることができました。目標達成に向けて知恵を出し合い、生徒も教職員

も協力して取り組んでいる姿に感動を覚えました。校名は翠星となっても今も引き継がれている松農魂を見せてくれたように思います。また、十一月中旬には、六星同窓会総会に先立ち、同窓生対象のホームカミングデーが開催され、本校の百五十周年記念事業生徒実行委員会の生徒、昨年度卒業生の実行委員会OBがホスト役となり、校内ツアーを実施しました。昭和三十三年に馬場町(現松任高校)から三浦町の現校舎に移転し、令和の現在の農業高校の様子を知ってもらおうこの企画は、大変好評で、学生時代の記憶との対比とともに、他の専門分野の施設を知ってもらうための大変良い企画だったようです。今回参加できなかった会員の皆様も来年のホームカミングデーには是非ご参加いただければと思います。



北陸でのイチゴの産業化を目指して



高等学校DX加速
化推進事業通称「DX
ハイスクール」とは大

学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が目的の事業です。

翠星高校では、令和六年度に「北陸でのイチゴの産業化」をテーマにDXハイスクールに認定されました。現在石川県でのイチゴ栽培は、ほぼ行われていません。理由としてイチゴの需要が一番高まるのが十二月〜三月頃となりますが、石川県の気候では日照時間が足りず設備コスト等の採算が合わないためです。また、商業化していても観光農園が主となっています。そこで、センサー等を用いてデータをとり、北陸の気候条件の中で栽培できる作型を検討していきます。そして、本校産のイチゴを用いて本校人気商品「イチゴジャム」に加工し、校内六次産業化を実現も目指し、コースの垣根を越えて共に活動していきます。



生物資源コース 臨時的任用実習助手 高木 利季
平成二十六年卒業 総合グリーン科学科

栽培を行いました。その時は何もかも手探りで状態での栽培だったので、収量も少なく、形も不揃いとなり上手く出来ませんでした。今年度の栽培では、以前の失敗から学んだ事を活かして千株を栽培しています。現在はやや生育不良の状態ですが、昨年度より上手に栽培出来ています。

今後は北陸におけるイチゴの高設栽培モデルの確立や安定した栽培で本校での六次産業化を目指して生徒と共に頑張っていく予定です。



六星賞受賞



総合グリーン科学科 食品科学コース
三年 上谷 菊環
日本学校農業クラブ
全国大会のプロジェクト
発表会等において、
優秀な成績を修めた。

第七三回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会 II類 優秀賞
「命名！蔵出し革命 酒米削り粉のポテンシャルの証明」
第七五回日本学校農業クラブ全国大会意見発表会 III類 優秀賞
タイトル「非常食を備蓄してください」
「能登半島地震から学んだこと」
能登半島地震被災経験から開発した備蓄食「菊環羊羹」の普及啓発活動

非常食「酒米甘酒羊羹(菊環羊羹)」開発からの学び



クラウドファンディングとは、インターネットを通じて不特定多数の人から資金を集める資金調達手法です。東日本大震災の支援をきっかけで、日本で広く普及したといわれています。

私が顧問を務める「食品科学研究会」は、今年クラウドファンディングに挑戦しました。研究会の部長が令和六年能登半島地震で被災し避難所生活を経験した事から、非常食に課題を見出し「理想の非常食を開発して被害の大きかった奥能登に備蓄したい」と言い出した事がきっかけです。試行錯誤の結果、日本酒製造時に出る上白糖を利活用した「酒米甘酒羊羹」を開発し、本会長のお力をお借りして金沢市の老舗和菓子店「榊森八」に製造して頂くことができました。この時の羊羹製造費用等一二十八万円をクラウドファンディングで集めたのです。

資金募集期間は三か月で、期間中はイベントでの発表やチラシ配布、部員の母校中学校への宣伝、馳浩県知事にもご紹介させて頂くなど、目標金額達成のため部員一丸となって頑張りました。結果、一四七名もの方々からご支援を頂き、目標の一八%である一五二万四千円の支援金が集まったのです。そのおかげで、今年一月



食品科学コース 教諭 安川 三和
平成二十一年卒業 園芸科学科

七日、奥能登に五千本の羊羹を配布することができ、部長の想いを叶えることができました。

私達を支援して下さいましたのは、半数は全国各地の全く面識のない方々でした。インターネットを介して多くの方々から「私達の活動を応援したい！」という気持ちを強く感じ、お金だけでなく活動に対する自信も貰ったのです。

現在、本校百五十周年の寄付事業の募金活動は、順調とはいえない状況です。これまでの卒業生からの寄附だけでなく、全国の一般の方から「母校を愛し活動する私達」を応援して貰えたとしたら、寄附ももっと集まるのではないかと。そしてその手法には、インターネットやSNSの活用も必須でしょう。日本で最も歴史ある農業高校として、新しい挑戦で時代を牽引していく存在でありつつつけられるよう、頑張りたいと思います。



食品科学研究会 HP

100年の森 造園分野での進捗状況

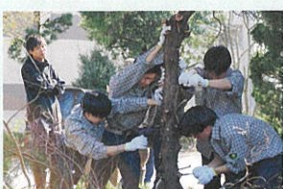


昭和五十一年、創立百周年記念事業で
四つの様式(フラン

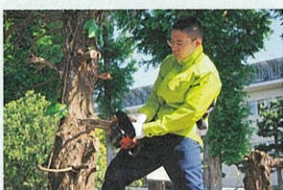
ス・イタリア・イギリス・日本)の庭園が前庭として作庭されました。しかし、五十年の時が経ち、授業時数の減少により手入れの行き届かない鬱蒼とした状態になってしまっていたのです。そこで、創立百五十周年を記念して五十年後も輝き続ける愛される庭へと復活させる「前庭復活プロジェクト」「100年の森計画」が令和五年度から始まりました。

生徒と共に伐採・剪定・管理できる区域を「タギョウショウエリア」「フランス庭園エリア」「イタリア庭園エリア」「日本庭園エリア」の四つに分け、メタセコイアやシイノキなど「未来に残したい樹木」を選抜・その他樹木は伐採することにしました。

昨年度、剪定・伐採に取り組んだ名物景観の列植されたタギョウショウエリアは、現在三年生が中心となって管理を続けています。今年度は、他のエリアに取り掛かりました。フランス庭園エリアには多くのカイズ



生徒による切り倒し



チェーンソーによる伐採



伐根



日本庭園 泥上げ



池の詰まり解消

現在の庭園は、憩いの場と呼ぶにはまだ早い段階です。今後とも誰もが思わず入りたくなるような、魅力ある庭園となるよう生徒と共に頑張っていきます。

ホームカミングデーの参加をよろしくお願いします!!

食品科学コース 教諭 山口 ひかる
平成二十八年卒業 総合グリーン科学科
令和六年十一月十六日(土)日の総会の日に「ホームカミングデー」を実施しました。ホームカミングデーとは、松農・翠星卒業生を学校に招待するイベントのことです。内容は、校内案内、庭園で記念写真、中庭で焼きたてのピザを食べるといった流れでした。校内案内は昨年度の卒業生が付き添ってお話をしながら周り、ピザは課題研究の授業で作成したピザ窯を用いて、在校生が手作りのピザを焼いてくれました。ピザはトッピングが新鮮でとても美味しかったです。



自由度の高い内容でしたが、卒業生だけでなくピザを焼いてくれた生徒や教員、受付をしてくれた生徒など多くの方々が関わることができたホームカミングデーとなりました。きつと例年よりも印象に残る総会を開くことができたいと思います。ご協力ありがとうございます!!



★昨年の取り組み

三月「アルミ缶でお米をたころう」懐かしの教室に集合しました。翠星卒の金田先生が講師となり、久しぶりに授業を受けている感じを味わってもらいました。炊いたお米はお肉と一緒に頬張り楽しく親睦会を行いました。